

大阪 SJCD

技工士特別講演会

2012年10月8日（月）に大阪国際交流センターにて技工士特別講演会が開催された。

当日は100人を超える技工士、歯科医師が集まり大盛況となった。

小林実理事が総合司会をし、松川敏久会長が開会の挨拶をおこなった。

『生体と調和を求めた補綴物形態』ということでまず歯科治療において最も大切とされる炎症のコントロールには補綴物の軸面形態が影響する。そこで藤本理事が歯の形態やトランジショナルエリアの大事さ、エマージェンスプロファイル、カントゥアーガイドラインなどについて講演された。

次に藤尾インストラクターより力のコントロールについて咬合の安定、アンテリアガイダンスとパーティカルストップ、ファンクショナルルームなどの重要性について講演された。

午後からは、桑田正博先生に『修復治療の変遷、そしてこれからの歯科—口腔単位から一人間単位の治療へ』という題で金属焼付ポーセレンをご自身で開発されたエピソード、

エマージェンスプロファイルという言葉の定義、クラウンカントゥアーと歯周組織との関係、クラウン外形基準を基としての修復治療計画について、エマージェンスプロファイル、スリープレーンコンセント、カントゥアーガイドライン、そして三角構造の理論に基づく支台歯形成について講演された。

また自らの口腔内の矯正治療、インプラント、金属焼付ポーセレン、オールセラミックなどによる修復治療を提示され、今後の歯科界の未来について講演された。

本多正明先生よりコメントをいただき、貞光謙一郎副会長の閉会の辞で閉会した。

櫻井健次

